

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウセイジン ニホンイョウカガク 学校法人 日本医療大学								
フリガナ大学の名称	ニホンイョウカガク 日本医療大学 (Japan Healthcare University)								
大学本部の位置	札幌市豊平区月寒東3条11丁目1番50号								
大学の目的	日本医療大学は、教育基本法および学校教育法の定めるところにより、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開できる保健医療福祉分野の人材の育成を目的とする。								
新設学部等の目的	医療現場において高度化や多様化が進む医療機器の適切な操作や安全管理を行い、医療機器の専門家として、様々なチーム医療に参画し、専門分野を超えた倫理的、社会的な課題について創造的に対応できる人材が必要である。これらの背景から、人間性が豊かで応用力や実践力をもって仕事ができる医療専門職業人を育成し、地域医療に貢献することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	保健医療学部 (Faculty of Health Sciences)	年	人	年次人	人		年月 第 年次		
	臨床工学科 (Department of Clinical Engineering)	4	60	—	240	学士(臨床工学) (Bachelor of Clinical Engineering)	令和4年4月 第1年次	北海道札幌市豊平区月寒東3条11丁目1番50号	
	計		60	—	240				
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	学部の設置 総合福祉学部介護福祉マネジメント学科 (40) (令和3年3月認可申請) ソーシャルワーク学科 (80) (令和3年3月認可申請)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	保健医療学部 臨床工学科	講義	演習	実習	計	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	保健医療学部 臨床工学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
			5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	34 (15)
		総合福祉学部 介護福祉マネジメント学科	6 (5)	3 (3)	1 (1)	4 (3)	14 (12)	0 (0)	37 (14)
		総合福祉学部 ソーシャルワーク学科	4 (2)	4 (2)	2 (2)	2 (1)	12 (7)	0 (0)	36 (19)
	計	15 (12)	9 (7)	5 (5)	6 (4)	35 (28)	0 (0)	- (-)	

教 員 組 織 の 概 分	既 設	保健医療学部 看護学科	16 (16)	5 (5)	12 (12)	7 (7)	40 (40)	2 (2)	52 (52)	
		保健医療学部 リハビリテーション学科	8 (8)	6 (6)	4 (4)	4 (4)	22 (22)	0 (0)	70 (70)	
		保健医療学部 診療放射線学科	5 (5)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	12 (12)	1 (1)	55 (55)	
		保健医療学部 臨床検査学科	5 (5)	0 (0)	5 (5)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	36 (26)	
		計	34 (34)	14 (14)	24 (24)	14 (14)	86 (86)	3 (3)	- (-)	
合 計		49 (46)	23 (21)	29 (29)	20 (18)	121 (114)	3 (3)	- (-)		
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体	
	事 務 職 員		40 (40)		12 (12)		52 (52)			
	技 術 職 員		-		-		-			
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)		0 (0)		2 (2)			
	そ の 他 の 職 員		3 (3)		0 (0)		3 (3)			
計		45 (45)		12 (12)		57 (57)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体	
	校 舎 敷 地	65,249 m ²	0 m ²		0 m ²		65,249 m ²		■校舎敷地： 借用面積35,418 m ² 、期間30年 ■運動場用地： 借用面積9,790 m ² 、期間20年	
	運 動 場 用 地	9,790 m ²	0 m ²		0 m ²		9,790 m ²			
	小 計	75,039 m ²	0 m ²		0 m ²		75,039 m ²			
	そ の 他	0 m ²	0 m ²		0 m ²		0 m ²			
合 計	75,039 m ²	0 m ²		0 m ²		75,039 m ²				
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体	
		50,089 m ² (50,089 m ²)	0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		50,089 m ² (50,089 m ²)		■借用面積32,273 m ² 、期間30年	
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体	
	60 室	73 室	39 室		2 室 (補助職員 0 人)		情報処理学習施設と共用 (補助職員 0 人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		保健医療学部 臨床工学科			12(うち合同研究室3) 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	保健医療学部 臨床工学科	495 [70] (495 [70])	14 [12] (14 [12])	11 [11] (11 [11])	21 (21)	0 (0)	0 (0)			
	計	495 [82] (495 [82])	14 [12] (14 [12])	11 [11] (11 [11])	21 (21)	0 (0)	0 (0)			
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
	2,204m ²		423席		117,140冊					
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	2,146m ²		テニスコート							

経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	—	—	
	共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	—	—	
	図書購入費	10,697千円	2,400千円	2,400千円	2,400千円	2,400千円	—	—	
	設備購入費	87,000千円	0千円	0千円	0千円	0千円	—	—	
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,900千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要		寄附金、私立大学等経常費補助金 等							
既設大学等の状況	大学の名称	日本医療大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	保健医療学部	年	人	年次人	人	学士	倍		
	看護学科	4	150	—	430	看護学	1.09	平成26年度	
	リハビリテーション学科	4	120	—	440	リハビリテーション学	0.92	平成27年度	
診療放射線学科	4	100	—	250	診療放射線学	1.21	平成28年度	北海道札幌市豊平区月寒東3条11丁目1番50号	
臨床検査学科	4	60	—	60	臨床検査学	1.20	令和3年度		
附属施設の概要	該当なし								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
専門教育科目	医用機器学	医用治療機器学	2前	2			○				1					共同			
		医用治療機器学演習	4後	1				○			1						共同		
		医用治療機器学実習	3前	1								2				共同			
		生体計測装置学	2前	4			○			1							兼1 兼1	オムニバス オムニバス	
		生体計測装置学演習	4後	1				○		1		1				兼1 兼1			オムニバス オムニバス
		生体計測装置学実習	3前	1						1		2					兼1 兼1	オムニバス オムニバス	
		循環器治療機器学Ⅰ	2後	1			○					1				兼1 兼1			オムニバス オムニバス
		循環器治療機器学Ⅱ	3後	2			○					1					兼1 兼1	オムニバス オムニバス	
		消化器治療機器学	2後	1			○					1				兼1 兼1			オムニバス オムニバス
		臨床機器学各論Ⅰ	3後		1		○					1					兼1 兼1	オムニバス オムニバス	
		臨床機器学各論Ⅱ	3後		1		○					1				兼1 兼1			オムニバス オムニバス
		臨床機器学各論Ⅲ	3後		1		○					1					兼1 兼1	オムニバス オムニバス	
		臨床機器学各論Ⅳ	3後		1		○					1				兼1 兼1			オムニバス オムニバス
	生体機能代行技術学	生体機能代行装置学Ⅰ	2前	4			○				1						兼1 兼1	オムニバス オムニバス	
		生体機能代行装置学Ⅱ	3後	2			○			1					兼1 兼1	オムニバス オムニバス			
		生体機能代行装置学Ⅲ	4前	2			○			1							兼1	オムニバス	
		血液透析療法装置学Ⅰ	3前	2			○			1					兼1	オムニバス			
		血液透析療法装置学Ⅱ	4前	2			○			1							兼1	オムニバス	
		血液浄化療法装置学	3後		1		○			1					兼5 兼6	オムニバス・共同 オムニバス・共同			
		呼吸療法装置学	3後		1		○				1						兼5 兼6	オムニバス・共同 オムニバス・共同	
		体外循環療法装置学	3後		1		○				1				兼5 兼6	オムニバス・共同 オムニバス・共同			
		生体機能代行装置学実習Ⅰ	2後	1					○	1	1	2					兼5 兼6	オムニバス・共同 オムニバス・共同	
		生体機能代行装置学実習Ⅱ	3後	2					○	1	2	2			兼5 兼6	オムニバス・共同 オムニバス・共同			
	医用安全管理学	医用機器安全管理学Ⅰ	2前	2			○				1							共同	
		医用機器安全管理学Ⅱ	3前	2			○					1			共同				
		医用機器安全管理学実習	3後	1						1		2				共同			
		医療安全管理学	4通	2			○				1						共同		
	関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ	2後	1			○			1								オムニバス 共同 共同	
		臨床医学総論Ⅱ	3前	1			○			1					オムニバス 共同 共同				
		臨床医学総論Ⅲ	3前	1			○			1						オムニバス 共同 共同			
		臨床医学総論Ⅳ	3後	1			○			1							オムニバス 共同 共同		
		臨床医学総論Ⅴ	3後	1			○			1									オムニバス 共同 共同
		臨床医学演習	4通	2					○	2	1								
	臨床実習	臨床実習	4前	4					○	5	2	2						オムニバス 共同 共同	
	卒業研究	卒業研究	4通	4					○	5	2	2			オムニバス 共同 共同				
	小計(40科目)		-	59	7	0	-	-	-	5	2	2				オムニバス 共同 共同			
	合計(100科目)		-	110	35	0	-	-	-	5	2	2					オムニバス 共同 共同		
	学位又は称号		学士(臨床工学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)											
	卒業要件及び履修方法							授業期間等											
	必修110単位、基礎科目の選択化網から8単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から4単位以上、専門教育科目の選択科目から2単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録上の上限:45単位(年間))							1学年の学期区分		2学期									
1学期の授業期間								15週											
1時限の授業時間								90分											

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部 臨床工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	人間と生活 生命科学	「生命」について、細胞学、発生学、分子生物学、生理学、遺伝学などの各学問から、生命科学の基礎的知識を学ぶ。生命の基本的単位である細胞の生命活動を支えるエネルギー源と身体の恒常性維持機能について、栄養・代謝・ホルモン・生体防御などの知識から理解する。遺伝子の自己複製と遺伝情報の発現の仕組みを概説し、生命の連続性と多様性について理解することで、人間一人ひとりが、かけがえない多様な生命の一個体であることを理解するとともに、生命の尊厳について科学的視点から考えることを目的とする。	
基礎教育科目	人間と生活 心理学	医療の対象者を理解する場合に、欠かせないのが人を全人的にとらえる視点である。本講義は心理学の入門として、幅広い心理学の基礎的知見を紹介し、心理学的に人間を理解する視点を涵養することを目的とする。内容としては現代心理学の諸領域を概観し、人の心のしくみについて学ぶ。また、日常のさまざまな場面や状況における人の行動や反応に対して、心理学的知識や理論にもとづき理解し、考察する。さらに、心の健康についても学修を深め、心の病を身近なものとして理解することを期待したい。	
基礎教育科目	人間と生活 コミュニケーション学	心理学、社会学、言語学、社会心理学などの学問から、コミュニケーションの概念、過程、構成要素などの基本理論を説明する。言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、コミュニケーションスタイルのタイプと特徴などを挙げて、それらの知識を基に、身近なコミュニケーション行動を考察する。交流分析やアサーティブコミュニケーション、傾聴法などの知識を得て、自らのコミュニケーションの傾向を知り、効果的なコミュニケーションを図る上での課題を講義する。	
基礎教育科目	人間と生活 倫理学	「倫理」とは人が生きていくために価値や規範としての「ありかた」を問い続ける学問である。そして医療はそのなかで「あるべき」姿を追いかけることの困難さを実感し続ける現場である。 本科目は医療倫理学の基礎として、前半では医療人としての倫理観を磨くために必要とされる視点や方法を学ぶ。後半では医療人にとって臨床での倫理的判断や立場に大きな影響を与える多くの項目のうち、もっとも基盤的なものであるパターナリズムおよびインフォームド・コンセントを対象に、日常生活との接点という角度から考察する。	
基礎教育科目	人間と生活 生命倫理	19世紀以降に科学的な形態となった医学は急速な発展を遂げたが、それまでの医学にはなかった新たな倫理的問題も生み出した。現代医学は確かに有効性を高めたものの、けっして万能ではない。そのジレンマと最終的に向き合わざるを得ないのは臨床で活動する医療人である。現場で日常的に遭遇する倫理的判断には明確な解答が出せないものがほとんどであり、悩み苦しむ患者を支援する医療者もまた悩み続けてきた。こうした医療者の苦悩に指針を示すものとして20世紀に成立した学問が生命倫理学である。ただし、その目的はあくまでも「議論を深めること」であり、「明確な解答」の提示ではない。本科目では生命倫理領域で問題とされてきた基本的なテーマの考察を通して、患者尊重という方向性が確立したかに見える現代医療が常にジレンマと表裏一体であることを学ぶ。	

基礎教育科目	人間と生活	医療と哲学	「哲学」という学問は本来「知を愛する」という意味をもつ。しかし「患者のため病に対処する」という立場で働く医療人にとっての「知」とは何かを「明確にすること」を目的とする場合が多く、知的作業が限局化しやすい傾向がある。さらに臨床ではそもそも明確化が不可能または困難であるという事実にはしばしば直面するため、医療人が知的作業そのものに苦痛を感じやすい環境でもある。しかし倫理的判断の基準の多くは哲学的考察の中から提示されており、知的作業への取り組みは重要である。本科目では、医療人の身近にある概念のいくつかを題材に、いわゆる「境界の不明瞭性」を見つめなおす思考作業を通して「医学では明確にならないもの」をあえて考えることの意味と面白さを学ぶ。	
基礎教育科目	人間と生活	人間関係の科学	医療現場では医療従事者と対象者との間に密接な人間関係が成立することから、円滑な人間関係の維持が求められる。本講義では人間関係に関わる心理学的基礎として「自己理解」、「他者理解」、「相互理解」について取り上げる。また、人間関係を維持する具体的なスキルについても学修する。さらに、とかく医療従事者と対象者との間には上下関係が生じやすいことから、パターンナリストティックに陥らない人間関係にも注目し、学修を深める。	
基礎教育科目	人間と生活	文化人類学	「地球市民の基礎教養」といわれる文化人類学は、心理学と同じ考現学の一種である。その目的は異文化理解力を身に付け、他者を深く理解するとともに、自らの文化・社会を正確に認識することにある。また、具体的な事例を、聞き取り調査と参与観察による現地のフィールドワークで収集し、データ化するという特徴がある。下位分類が多様なこの学問から、今年度は介護人類学と医療人類学を講義内容とした。文化的な身体とは何か、ケアとは、死とは何かなど、医療関係者を目指す学生たちには、是非一度聞いてほしい講義である。また、本学では科目としてない「死生学」が授業の後半となる。また8回の授業とは別に、死をカジュアルに語る「北海道デス・カフェ」の体験も設定する。参加は任意であるが、定期試験の加点となるお救い課題の一つとしている。	
基礎教育科目	人間と生活	医療と社会学	「社会」とは弱者戦略として人が群れることで成立するものである。一定の条件のもとに私たちは様々な社会に所属しているが、社会学では家族や地域といった基礎的集団をまずは説明し、その後、家族や地域社会が今生きている医療や介護の現実について学んでもらう。家族社会学の成果からは日本の近代家族の特徴について解説し、その崩壊の一部についても学修する。あるいは健全な家族関係の阻害要因であるDV等について学ぶ。地域に関しては超高齢社会の到来がもたらすあらたな共生社会作りや地域包括ケアシステムに関する学修を行い、病院完結型社会への変化や社会の看取り力を向上させるための様々な試みから、死の社会学について学修する。また、日本の介護保険、医療保険の特徴とその社会的背景を解説する。	
基礎教育科目	人間と生活	法学	1人の社会人として、また医療に従事する者として必要な日本国憲法の基本的な知識と人権感覚を身に付けるために、日本国憲法の基本的な考え方、統治の構造、基本的人権の保障について学びます。憲法は誰のためにあるのか、日本国憲法の基本原理はなぜ基本的人権の保障、国民主権、平和主義なのか、現実の憲法問題に対して日本国憲法はどのように機能しているのかについて解説します。講義では具体的な憲法問題を取り上げ、日本国憲法が現実にもどのように解釈され、運用されているのかについて、判例・学説を紹介しながら解説し、その問題点を理解することを目指します。	
基礎教育科目	人間と生活	教育学	生涯学習時代の教育学について講義する。グローバルにしてローカルな時代の生涯学修を見て行く基本視点と日本における課題を示した上で、教育の原論・本質論・実践論・計画論の諸領域について、具体的な事例をあげつつ講義形式で進める。	

基礎教育科目	人間と生活	北海道史	北海道の場合、ほとんどの学生がこれまでに北海道史を学んでいないことが多い。足元の歴史を、是非学修してほしい。私たちの祖先は、どのようにして今日までの北海道での生活を築いてきたのかを、本講義では主に近代史をおして学修する。そのため、この授業でいう北海道史とは、和人による「蝦夷島」入植・定住の歴史と、先住民による生活と文化のあゆみ、この二つの歴史からなっている。この授業は、「日本の歴史」における「北海道史」の独自性を理解したうえで、その足跡を歴史資料に即して縦覧しようとするものである。また、最後に医療関係者を志す者として知っておいてほしい北海道の医療史の概略も講義する。「体験的自学自習のためのフィールドワーク用副読本 2021年版」を教員は作成するので、それを片手に、是非、北海道の史跡や歴史資料を読み解く作業にチャレンジをして、個々のさらなる学びにつなげてほしい。	
基礎教育科目	人間と生活	ボランティア論	ボランティアとは「個人の自由意思にもとづき、自らの技能や時間等を提供し、他者や社会に貢献する活動」と考えられるが、単に社会貢献にとどまらず、地域社会を主体的に創造する市民参加活動であり、自己実現の手段の一つと考えられる。本講義では、ボランティアの歴史、多様なボランティアの現状を概観し、身近なテーマをもとに実際のボランティア体験をシュミレーションし、ボランティアの価値を理解することを目指す。	
基礎教育科目	科学的思考の 基盤	物理学（基礎）	物理学は、自然界のあらゆる現象を包括的に理解するための理論を構築する自然科学のひとつであり、機器の原理や、生命現象を科学的に理解するうえで、必要不可欠な科目である。具体的な内容として、各種単位、力学、音波・超音波、原子と放射線などを扱い、臨床工学科の専門科目の理解につなげる。	
基礎教育科目	科学的思考の 基盤	物理学（応用）	物理学（基礎）で修得した基礎知識を基に、医療分野で活用されている力学、音波・超音波、原子と放射線などの物理的エネルギーの特性について理解する。	
基礎教育科目	科学的思考の 基盤	化学	化学は臨床工学技士教育の基礎科目を学ぶ上で重要な土台となる。本科目では、物質の化学的性質や無機および有機化合物の性質についての概念を熟知し、専門科目を学ぶうえで、また臨床工学技士として業務を遂行するうえで必要な知識を修得する。	
基礎教育科目	科学的思考の 基盤	生物学	生物についての基礎知識は、医療従事者として専門科目を学修するための基礎として必要不可欠であるとともに、生命倫理観をもつためにも重要である。本科目では生物の生命現象を細胞、組織、器官、固体の各レベルから概観し、生物学の基礎を幅広く学修し、専門基礎科目へつなげることを目的とする。具体的には、生命の基本単位である分子、細胞、組織から遺伝子まで生体の成り立ちを系統的に学修する。	

基礎教育科目	科学的思考の 基盤	生活と運動	生活動作と運動量、運動機能と心肺機能の仕組みを理解し、身体運動を通して、身体の変化と効果を学ぶ。体力低下や運動不足から生じる健康問題について学び、持久力、筋力アップの体力づくりや、ストレッチ、柔軟体操、野外活動など、疲労回復やストレス発散を目的としたリラクゼーションの原理と方法について学ぶ。地域散策や集団ラジオ体操などの地域コミュニティとの交流や、冬の雪道歩行、雪かきにおける安全な身体運動の方法など、生活における運動を健康科学的視点から考える。
基礎教育科目	科学的思考の 基盤	健康とスポーツ	寿命をのばす運動プログラム、腰痛、肩こり改善の運動プログラム、高齢者の転倒・骨折予防の運動プログラム、肥満予防の運動プログラム、生活習慣病予防の運動プログラムなどを実際に体験し、健康づくりの運動のあり方と実践的な指導方法および評価法について学ぶ。また、民間でおこなわれている健康教室のプログラムなどから、運動が健康づくりにどう取り入れられているか、グループ運動の効果やスポーツ文化として人と人との交流にどう役立っているかを学ぶ。
基礎教育科目	科学的思考の 基盤	数学	数学の基本的知識は医用科学や統計において根幹をなすものであり、科学的判断においても大変重要である。この講義では高等学校までに標準的に学ぶ数学について、例題などを活用し復習することで、医用科学や統計学に必要な基礎を学ぶことを目的とする。数学では、確率変数と確率分布、統計、推定について学修する。
基礎教育科目	科学的思考の 基盤	数学（統計学）	臨床現場から得られる多様で豊富なデータ（ビッグデータ）に対して、統計的処理や検定を行い、それをどう活用するかはとても重要である。また、統計学を理解することは、データの理解、因果関係、「根拠（エビデンス）に基づく医療（EBM：evidence based medicine）」を実践するためには不可欠であり、それがより良い医療の提供の助けとなる。本科目では、統計学の推定・検定の解説および例題を用いて、基本的な推定・検定の手法を身につけることを目的とする。
基礎教育科目	語学	日本語表現	本科目の目的は、広く社会に通用する基本的な言語表現力を身につけることにある。コース前半では、「文書作成の技術」と題し、大学での学修に不可欠な文書作成技法について学ぶ。社会の一般的ルールに加え、臨床工学領域における作法なども学修の視野に入れる。コース後半では「日本語力を磨こう」と題し、場面に応じたわかりやすい日本語表現について学ぶ。なお本授業では、グループワークや相互チェックなど演習型の教室内活動を多く取り入れる。
基礎教育科目	語学	英語 I	医療に関する様々なトピックを英文で読み基本的な読解力を高めるとともに、理解した内容を伝達するための英語による発信力（文法力、伝わる発音とリズム、自然な表現）の総合的向上をめざす。英文を正確に読むためのスキルを身に付け、いろいろな英文を読むことで単語理解や語彙力の向上を図り、それらを活用して自然な英語表現の修得につなげる。国際的な医療活動や医療トピックを中心とした多様な文献及び映像教材を通して、外国の文化や社会、外国人の価値観などを知る機会、異文化交流の動機付けとなり、今後の語学学修のモチベーションとなることを期待する。
基礎教育科目	語学	英語 II	このクラスでは、ロールプレイ、ペアワークなどで場面を想定して英語の修得をめざします。英語について考えること、発音練習、会話によるコミュニケーションが重視されます。英語を話すときに自文化について考え、他文化への理解を深めてもらいたいです。言葉によるコミュニケーションと言葉によらないコミュニケーションの両方に取り組みます。

基礎教育科目	語学	英語Ⅲ	この教科では、保健医療分野における英文文献を教材として、正確に、論理的・批判的に読解する能力を身に付け、論文の内容を要約できることを目的とする。グループ抄読をとおして、英文や論文内容の解釈についてディスカッションすることで、英文文献抄読を主体的に学修するための基礎的能力を育成することを目的とする。また、外国人の患者にも対応できるように一般的に必要な医療現場におけるコミュニケーション能力の向上にもつとめる。eラーニングは発音と会話の実践において重要な役割を果たす。	
基礎教育科目	語学	医療英語	グローバルなパラメディックな医療人材を育成するため、また、今後わが国では外国からの医療スタッフと協働することを鑑み、医療英語の必要性が高まるものと考えられる。また、将来的には英語論文を執筆することも見据えた教育が必要である。そのため、医療英語を読解できるよう、①英語の基礎（英文法及び英文の構成要素）、②比較的短文の医療技術英語（英文医療機器カタログ等）、③英語で記載された医療機器の取扱説明書及び医学論文を読んで理解する技術を学修する。（6小鷹丈彦/8回）基本文型、前置詞、不定詞、動名詞、過去分詞、関係代名詞、関係副詞、完了形、医用機器カタログ文法、長文読解（1高橋誠/7回）医用機器マニュアル、長文読解、医学論文翻訳	オムニバス方式
基礎教育科目	語学	中国語	隣国である中国とは、人事交流をはじめとして、経済・文化などすべての面で交流が盛んになっている。医療のグローバル化に向けて、国際的な動向をコミュニケーションをとおして理解することはきわめて重要である。本授業では、中国語の基礎や簡単な会話を学びつつ、現代中国の社会や文化についての理解をはかる。異文化理解および外国語学習に意欲をもった履修を強く求めたい。	
基礎教育科目	語学	韓国語	隣国である韓国とは、人事交流をはじめとして、経済・文化などすべての面で国家間交流が盛んになっている。医療のグローバル化に向けて、国際的な動向を知り、コミュニケーションをとおして理解することは重要である。そのため、本教科では韓国語の文字、発音など基礎的なことから日常生活で使う簡単な会話と読解能力を育成することを目的とする。また、本講義では韓国語をより上達させるため、コミュニケーションの背景知識になる韓流ドラマ・K-pop・動画などを活かし、韓国の社会や文化などを紹介し、理解を深める。	
専門基礎教育科目	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	医学分野の最も基本をなす解剖学・生理学を併せて学ぶことで正常な人体の構造と機能を理解する。生体機能の総括的位置と占める神経系、感覚系や身体運動のしくみ、消化吸収、代謝、ホメオスタシスなどの領域に重点を置いて学習する。（3瀧本将人/8回）細胞、組織、臓器、神経、骨格、筋（6小鷹丈彦/7回）消化器、肝・胆・膵、代謝、ホメオスタシス、生殖器	オムニバス方式
専門基礎教育科目	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅱ	解剖生理学Ⅰで学んだ内容を基に臨床工学への応用を考慮しながら、臨床工学技士の業務領域に特に関連の深い、血液系、循環器、呼吸器、腎泌尿器の解剖生理学的特徴をその機能と関連させて概説できるように理解を深める。また、臨床現場に必要な解剖生理的知識修得を目指す。（3瀧本将人/8回）血液、体液、循環、呼吸（6小鷹丈彦/7回）腎、内分泌、代謝	オムニバス方式

専門基礎教育科目	人体の構造と機能	解剖生理学演習	解剖学、生理学は、人体の正常構造とその機能を学ぶ最も基礎的な学問である。正常な人体の形態と構造を細胞レベルから組織、器官、器官系まで統合し、それらの機能と合わせて理解することが目的である。人体には様々な機能があり、その働きに異常をきたすと病気になる。そのため臨床工学を学ぶうえで、解剖生理学を理解することは必要不可欠である。解剖生理学実習では、解剖生理学講義で学んだ知識をもとに、人体模型を観察し、演習問題を解くことで人体の構造と機能の理解を深める。(3瀧本将人/6回)血液、体液、循環、呼吸(7工藤元嗣/6回)消化、腎、内分泌(6小鷹丈彦/3回)神経、感覚器、生殖器	オムニバス方式
専門基礎教育科目	人体の構造と機能	分子医化学	分子医化学は、生体内の様々な事象について、それら生体物質の構造や機能、代謝等を化学的に説明していく授業である。生命現象を探究する上で多くの学問の基礎となり、今後の授業となる生体機能代行装置の操作、管理に必要な知識の理解につなげる。本講義では、細胞の構成、ゲノムと遺伝子、糖質、脂質、タンパク質やなどの生体物質の構造と機能について学修する。	
専門基礎教育科目	臨床工学的に必要な基礎	応用数学	数学は、科学や技術を支える基盤的な学問である。この科目では、物理や電気工学、機械工学などで使われる数学の基本的知識と活用法を学修することで、臨床工学を学ぶための準備を図る。(1高橋誠/4回)方程式、指数関数、三角関数(4竹内文也/4回)微分、積分、ベクトル、行列、行列式	オムニバス方式
専門基礎教育科目	臨床工学的に必要な基礎	機械工学 I	臨床工学技士として医療機器の動作や生体機能の理解を深める基盤となる機械工学の知識は必須である。機械工学 I では、力学、材料力学、流体力学、波動、熱力学を主なテーマとして学修し、専門分野の理解を深めるための基礎知識を養う。	
専門基礎教育科目	臨床工学的に必要な基礎	機械工学 II	臨床工学技士として医療機器の動作や生体機能の理解を深める基盤となる機械工学の知識は必須である。機械工学 II では、医療機器や生体との関連を機械工学的見地から学修する。	
専門基礎教育科目	臨床工学的に必要な基礎	電気工学 I	医用機器の多くは電気を電気エネルギーとして使用している。しかし、生体の電気的な特性を利用した医用治療機器もあり、臨床工学技士としてそれら基盤となる電気工学の知識は必須である。電気工学 I では、直流回路、交流回路、電気エネルギーを主なテーマとして学修し、専門分野の理解を深めるための基礎知識を養う。	
専門基礎教育科目	臨床工学的に必要な基礎	電気工学 II	医用機器の多くは電気を電気エネルギーとして使用している。しかし、生体の電気的な特性を利用した医用治療機器もあり、臨床工学技士としてそれら基盤となる電気工学の知識は必須である。電気工学 II では、電磁気学、インピーダンス素子、過渡現象を主なテーマとして学修し、専門分野の理解を深めるための基礎知識を養う。	

専門基礎教育科目	臨床工学的に必要な基礎	電子工学Ⅰ	臨床工学技士として医療機器の動作原理の理解を深めるための基盤となる電子工学の知識は必須である。電子工学Ⅰでは半導体素子の特性、動作原理、増幅回路などを主なテーマとして学修し、専門分野の理解を深めるための基礎知識を養う。	
専門基礎教育科目	臨床工学的に必要な基礎	電子工学Ⅱ	臨床工学技士として医療機器の動作原理の理解を深めるための基盤となる電子工学の知識は必須である。電子工学Ⅱでは医療機器との関連を電気工学的見地から学修する。	
専門基礎教育科目	臨床工学的に必要な基礎	材料工学	今日の医療においては様々な医用材料が用いられている。それらの医用材料はそれぞれの特性に合わせ最も有効な材料で利用されている。本講義では、種々の医用材料の特徴を学ぶと同時に、生体に起こりうる生体反応などを学修する。	
専門基礎教育科目	臨床工学的に必要な基礎	物性工学	生体は医用治療機器に代表される医療機器は最大の効果を上げると同時に生体への侵襲を最小限に留めることが求められる。そのためには生体の種々の物理的応答に対する特性を知る必要がある。本講義では、生体の電気的特性や機械的特性、光特性などを学修し、それらを活用した医療機器の原理を理解するための基礎知識を養う。	
専門基礎教育科目	臨床工学的に必要な基礎	計測工学	血圧や呼吸流量など、臨床工学技士が扱う生体情報の多くは変換器(トランスデューサ)によって電気信号に変換される。本講義では種々の変換器の特徴を学修し、生体計測装置の原理を理解するための基礎知識を養う。	
専門基礎教育科目	臨床工学的に必要な基礎	電気工学実習	本実習では、RCフィルタなどの回路を作成することを通して電気工学Ⅰ、電気工学Ⅱで学修した内容の理解を深めることを目的とする。	共同
専門基礎教育科目	臨床工学的に必要な基礎	電子工学実習	本実習では、オペアンプを使用した電子回路を作成し、電子工学Ⅰ、電子工学Ⅱで学修した内容の理解を深めることを目的とする。	共同

専門基礎教育科目	臨床工学に必要 な基礎	臨床工学応用演習	本演習では、医用工学で学修した内容の理解を深め、活用する力を養うことを目標とする。そのため、機械工学、電気工学、電子工学、物性工学、情報処理、システム工学、材料工学演習形式で様々な分野の問題に取り組む。また、総合演習では分野ごとの知識を総合的に活用できるような実践演習を行う。	共同
専門基礎教育科目	臨床医学に必要 な基礎	医療総論	医学・医療の歴史、医療倫理、最先端医療、医療事故防止の実際、日本における保険医療制度や地域医療連携について学び理解する。(11島本和明/6回) 医学・医療史、再生医療の進歩、患者の権利と医療倫理学、医療事故防止、保険医療制度と地域医療連携(3瀧本将人/1回) 最新の癌診断・癌治療(28銭本隆行/1回) 介護・福祉・在宅医療	オムニバス方式
専門基礎教育科目	臨床工学に必要 な基礎	臨床工学総論	臨床工学技士の業務領域は非常に広く、その領域ごとに多種多様な役割を持つ。本講義では臨床工学技士の主業務である透析室、手術室、集中治療室、高気圧酸素治療室、内視鏡室、カテーテル室での業務内容について学び、臨床工学技士に求められる役割を理解する。(1高橋誠/1回) 臨床工学技士とは(7工藤元嗣/3回) 透析室、手術室、集中治療室、高気圧酸素治療室業務(8齊藤高志/2回) 内視鏡室、カテーテル室業務(9齊藤徳/2回) 不整脈治療、ME機器管理業務	オムニバス方式
専門基礎教育科目	臨床医学に必要 な基礎	病理学	病理学は、病気と病的状態の本質を探る学問である。病気になると正常時の調和が破綻し、身体の様々働きに異常が生じる。従って、病気による身体の異常を理解することで病気の仕組みが理解出来るようになる。病理学では、幅広い病理学の領域から臨床工学技士が関わると思われる項目を選別し、解剖学や免疫学に基づく基礎から、病気の診断と治療に関わる臨床医学の事項までを学ぶ。	
専門基礎教育科目	臨床医学に必要 な基礎	分子病態生理学	本科目では、臨床工学技士として知っておくべき主な疾患について、その症状、病態生理を分子レベルで理解することを目的とする。	
専門基礎教育科目	臨床医学に必要 な基礎	生体防御学	生体防御学では、感染症に対する防御、すなわち免疫学に関する基礎を学ぶとともに生体防御反応の基盤となる生体の恒常性の維持に関する基礎知識を講義する。特にこの分野は基礎医学の中核となるものであることから、生体が有する様々な障害や感染、発癌に対する防御の仕掛けについて講義する。	
専門基礎教育科目	臨床医学に必要 な基礎	微生物学	ここで講義する微生物学は、感染症の原因となるいわゆる医学微生物学である。医療従事者にとって感染症に対する知識は必須であり、特に様々な基礎疾患を有する患者と対峙する臨床工学技士は、安全で安心な医療を医療機器を通じて提供するために重要である。本講義では、感染症の原因となる病原微生物に関する知識を講義するとともに、これらの微生物に対する制御法についても講義する。	

専門基礎教育科目	臨床工学に必要 医学的基礎	臨床薬理概論	本科目では、臨床工学技士として理解すべき代表的な薬物の作用機序、副作用、毒性、生体への薬理作用などの基礎知識を学修する。特に、主要疾患に対する薬物療法の場合、薬物の吸収、移動、分布と薬物の作用動態や副作用などについて、具体的な臨床データを紹介しながら学修する。	
専門基礎教育科目	臨床工学に必要 医学的基礎	公衆衛生学	公衆衛生学の原義は、「すべての人の生命と生活を守る」ことである。公衆衛生学は、保健・医療・福祉を包括する総合科目であり、この分野の専門職が連携共同するために必要不可欠な共通言語である。本講義は疾病・障害の予防、健康の保持・増進を社会として達成するための基本的な考え方と歴史的経緯、制度を学ぶことを目的としている。公衆衛生を支える基礎科学である疫学、統計学の知識および技術の基礎を理解、修得し、あわせて公衆衛生活動に関わる計画や評価に必須な手法（地域アセスメント、保健計画策定）の基礎についても学ぶ。	
専門基礎教育科目	臨床工学に必要 医学的基礎	チーム医療	他職種が臨床工学技士に求めている働きや、最善の医療提供のために必要な臨床工学技士の関わりなど、チーム医療の一員としての責任と役割を自覚するため、専門領域ごとの臨床工学技士業務の重要性・専門性を理解し、臨床工学技士に求められる知識・技術・業務内容について修得する。また、Think-Pair-Shareの技法を用いて領域ごとのチーム医療の在り方を自ら考えることで、チーム医療における個々の課題を発見する。（7工藤元嗣/2回）多職種連携、呼吸ケアチーム（8齊藤高志/2回）透析室、内視鏡室、でのチーム医療（9齊藤徳/3回）手術室、集中治療室、心臓カテーテル治療室でのチーム医療（6小鷹丈彦/1回）看護師業務	オムニバス方式
専門基礎教育科目	臨床工学に必要 システム工学の基礎	情報処理 I	文書作成、マニュアル作成、データ整理など医療現場で日常的に使用する WordおよびExcelの基本操作ができるよう操作方法を学ぶ。授業ごとに課題を与え何度も反復により効率的に利用できるようになる。	
専門基礎教育科目	臨床工学に必要 システム工学の基礎	情報処理 II	現在の医療現場では学会発表等のプレゼンテーションの機会が多い。ここではPower Pointの基本操作を学ぶとともに、Excel及びPower Pointによるデータからプレゼンテーションを起こす手法を修得する。（4竹内文也/7回）PowerPointを用いた発表とは（8齊藤高志 / 8回）PowerPointの基本技術	オムニバス方式
専門基礎教育科目	臨床工学に必要 システム工学の基礎	システム工学	システムとは、複数の要素が互いに影響を及ぼし合い、全体として大きな目標を達成するためのまとまりや仕組みのことである。本講義では、制御工学と簡単なプログラミングを通し、システムの考え方を学修する。	

専門基礎教育科目	臨床工学に必要なシステム工学の基礎 医療情報学と	医療情報学	情報技術は現代の社会においては欠かすことのできない技術の一つとなっている。本講義では、情報量、ネットワーク、セキュリティなどを中心に臨床工学技士として必要な情報技術の基礎を学修する。	
専門基礎教育科目	臨床工学に必要なシステム工学の基礎 医療情報学と	プロジェクトスキルⅠ	臨床工学技士業務において絶対的な正解の無い「問い」や「話題」に対し、課題を発見し、自ら情報を集め、解決するための基礎能力を身につけることを目的とする。具体的には、思考・発想法の試行、議論の体験、プロセスの分析・考察・共有を通じて、意見を表現するための基礎的な知識や技能、多角的・多面的な事象の捉え方、問題の発見方法、情報の論理的な分類・分析などについて学ぶ。	
専門基礎教育科目	臨床工学に必要なシステム工学の基礎 医療情報学と	プロジェクトスキルⅡ	「プロジェクトスキルⅠ」で学んだ知識・経験を意識し、課題発見・解決のための実践的な能力を身につけることを目的とする。具体的にはチームごとに社会課題について現実的かつ多面的な視点から問題・課題を議論・考察し、実行可能な解決方法を合意形成（コンセンサス）により、見出す。本科目は臨床実習（４年次前期）前の客観的臨床能力試験（OSCE）を兼ね、本科目の単位を修得しないと臨床実習を行うことはできない。	共同
専門教育科目	医用生体工学	医用工学概論	医学と工学の学際的な学問である医用工学を概論的に学ぶことで、工学的基礎知識と物理的エネルギーに対する生体の反応及び生体信号とその処理方法について理解し、医療機器の管理に必要な医学と工学の基本的知識をつなげて考えられるようになる。	
専門教育科目	医用生体工学	医用機器学概論Ⅰ	医療機器の高度化、多様化によって、臨床工学技士が管理する医療機器の種類は増加の一途をたどっている。本科目では、診断および治療に係る医療機器の種類と役割について理解し、それぞれ医用機器を安全に管理するために習熟が必要な基本原理について幅広く学ぶことを目的とする。	
専門教育科目	医用生体工学	医用機器学概論Ⅱ	本科目では、医用機器学概論Ⅰで修得した機器の種類や基本原理についてさらに深め、診断および治療のために使用する医療機器の安全管理方法について概論的に学ぶ。また、医用機器の特徴と関連する設備基準を併せて領域ごとに習熟を深めることで、医療機器管理を多角的にとらえる思考力を養う。	
専門教育科目	医用生体工学	医用工学演習Ⅰ	電気工学、電子工学、機械工学などの基礎工学で修得した知識を基に医用生体工学分野の幅広い知識を深めるために、演習形式で習熟する。	共同

専門教育科目	医用生体工学	医用工学演習Ⅱ	電気工学、電子工学、機械工学などの基礎工学で修得した知識を基に医用工学演習Ⅰで習熟した内容をさらにレベルアップし、医用生体工学分野の幅広い知識をさらに深めるため、演習形式で習熟する。	共同
専門教育科目	医用機器学	医用治療機器学	医用治療機器は種々の物理的エネルギーを生体に作用させて治療を行う機器であり、医用治療効果と比例して物理的エネルギーが増加することから安全管理は極めて重要となる。本科目では医用治療機器の中でも特に強い物理的エネルギーを用いる電気メス、除細動器、ペースメーカー、レーザー手術装置、電磁治療器、超音波治療装置、結石破碎装置、内視鏡手術関連装置、冷凍手術装置などの基本原理や構造および構成など、医療機器を操作・管理するために必要な基礎について各論的に学ぶ。	
専門教育科目	医用機器学	医用治療機器学演習	本演習は医用機器学概論Ⅰ、医用機器学概論Ⅱ、医用治療機器学Ⅰ、医用治療機器学Ⅱで修得した内容を様々な設問や事例を基に演習形式で習熟を深め、将来臨床工学技士としての診療支援、および安全管理に必要な医用治療機器学分野の幅広い知識の定着と、実践能力を養うことを目的とした科目である。	
専門教育科目	医用機器学	医用治療機器学実習	医療機器の多様化により、治療に関連した新たな医療機器が開発され臨床現場に登場している。治療に用いられる機器は多種多様であるが特に電磁気および機械的エネルギーを用いた治療器が主流である本実習では、それらの管理に必要な知識や技術を実戦形式で修得する。また、新しく登場した機器の活用方法や安全管理に関する問題発見や、改善のための施策の実施、それら安全管理情報の共有が求められる。そこで効果的または安全な機器の使用方法に関する改善例についてグループごとに事例検討を行う。また、その事例検討結果についてまとめ第三者に伝える実践力を修得することを目的とする。	共同
専門教育科目	医用機器学	生体計測装置学	患者の状態を正しく把握することが、適切な医療行為につながることは容易に想像がつく。しかしながら、生体を対象とするため、出来る限り非侵襲的・低侵襲的に計測を行わなければならない。この講義では、様々な生体計測装置の原理や特徴を幅広く学修する。	
専門教育科目	医用機器学	生体計測装置学演習	生体計測装置学で習熟した内容をさらにレベルアップし、臨床工学技士として必要な生体計測装置学分野の幅広い知識をさらに深めるため、演習形式で習熟する。	共同

専門教育科目	医用機器学	生体計測装置学実習	臨床工学技士の業務領域は多岐にわたり、他職種と連携して検査・診断に使用する医療機器においても管理を求められるものがある。それらを管理する臨床工学技士には計測装置に関する知識や実践的技術のみならず、より効果的な活用方法や安全管理についても追及することが必要となる。そこで本実習では、生体計測装置を用いた実技実習に加えて、効果的または安全な使用方法に関する改善例についてグループごとに事例検討を行う。また、その事例検討結果についてまとめ第三者に伝える実践力を修得することを目的とする。	共同
専門教育科目	医用機器学	循環器治療機器学Ⅰ	現在、高齢化の影響に伴い循環器疾患が急増していることから、不整脈や虚血性心疾患の治療は極めて重要である。本科目では、急激に進歩・普及している心疾患に対するカテーテル治療分野で計測、診断に使用する機器についての習熟を深めることで、循環器疾患の治療に関連した機器管理業務に必要な基礎知識の修得を目的とする。特に不整脈治療に必要な心電計の管理及び造影、虚血性心疾患の治療に必要な心臓カテーテル検査関連機器など計測機器について、臨床現場で必要な実践的知識を修得する。	
専門教育科目	医用機器学	循環器治療機器学Ⅱ	現在、高齢化の影響に伴い循環器疾患が急増していることから、それらの幅広い疾患に対しカテーテルを用いた低侵襲治療が広く普及している。特に虚血性心疾患に対する経皮的冠動脈カテーテルインターベンション（PCI）や頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーションが急激に進化し、臨床工学技士の係りも深まっている。本科目では、心臓カテーテル治療を行う血管造影室にて使用する機器や治療用デバイスについての習熟を深めることで、臨床工学技士が行うカテーテル治療業務にて即戦力となりえる知識の修得を目的とした科目である。	
専門教育科目	医用機器学	消化器治療機器学	現在、内視鏡関連装置の進歩に伴い、多くの消化器疾患の診断に軟性鏡を用いた内視鏡検査が汎用されている。また、消化器疾患の治療においても軟性鏡または硬性鏡を用いた内視鏡治療の適応の幅が広がっている。本科目では、急激に進歩・普及している内視鏡検査および治療に使用する機器の操作、管理に必要な基礎知識の修得を目的とする。（40寺島寿江/4回）内視鏡の歴史、上部・下部消化器検査（8齊藤高志/4回）内視鏡システムの保守管理、腹腔鏡視下手術	オムニバス方式
専門教育科目	医用機器学	臨床機器学各論Ⅰ	心臓カテーテル治療領域は、高齢化に伴う循環器疾患の増加および治療技術の発展により、最も臨床工学技士の関りが求められている領域の一つである。本科目では虚血性心疾患および頻脈性不整脈の治療に用いる診断装置および治療デバイスの実践的知識を学び、症例を基にPCIおよびカテーテルアブレーションにおける診療支援に必要な実践的知識の修得を目的とする。（9齊藤徳/5回）インターベンション（29平田和也/3回）アブレーション	オムニバス方式
専門教育科目	医用機器学	臨床機器学各論Ⅱ	近年、ESDやEMRのように消化器内視鏡検査と合わせた治療法が確立され、臨床工学技士にも内視鏡管理のみならず深いかわりが求められている。また、腹腔鏡下手術においても内視鏡システムをはじめとする手術に関連する機器の管理が臨床工学技士に求められており、これらの内視鏡関連業務に就いて実際の臨床現場での業務内容を学び、内視鏡業務における診療支援に必要な実践的知識の修得を目的とする。	
専門教育科目	医用機器学	臨床機器学各論Ⅲ	近年、臨床工学技士業務として必要性が急増している手術室における医療機器管理業務の中でも、特に高度な知識と臨床工学技士の深いかわりを要するロボット手術装置、医療用ナビゲーションシステム、術中神経モニタリング運動誘発電位測定装置、麻酔器について専門的な知識を修得し、手術室業務における臨床工学技士の重要性について理解する。（8齊藤高志/5回）手術室の業務、手術室の設備、麻酔器（25成田孝行/3回）手術用ナビゲーション、術中神経モニタリング、ロボット手術	オムニバス方式

専門教育科目	医用機器学	臨床機器学各論Ⅳ	近年、高齢化の影響に伴い不整脈疾患患者も比例的に増加していることから、不整脈治療デバイスにおいても目覚ましい発展が遂げられている。そのため、ペースメーカをはじめとする不整脈治療デバイス関連業務において臨床工学技士の活躍の場が拡大している。本科目では不整脈治療領域の中でもペースメーカおよびICD・CRT-D関連業務に必要な実践的知識に加え、プログラマなどの関連機器の操作方法の実際について学ぶことで、不整脈治療領域において即戦力となる実践的な知識を修得する。(8齊藤高志/4回) 徐脈性不整脈の治療(36扇谷稔/4回) ペースメーカの管理、頻脈性不整脈治療	オムニバス方式
専門教育科目	生体機能代行技術学	生体機能代行装置学Ⅰ	生体機能代行装置の操作・管理は臨床工学技士の主業務であり、臨床工学を学ぶ上で最も重要な核となる科目である。本科目では呼吸療法、血液浄化療法、体外循環療法など生体機能代行装置全般の原理構造などの基本についての幅広い知識を学ぶ。	
専門教育科目	生体機能代行技術学	生体機能代行装置学Ⅱ	生体機能代行装置学Ⅰで学んだ基礎を基に生体機能代行装置の中でも特に呼吸療法、血液浄化療法、体外循環療法に関連した治療装置の実践的知識を修得することで、それぞれの治療領域において即戦力となりえる知識を修得し、安全に装置の操作運用、トラブル対応ができるように学ぶ。(5千原伸也/11回) 血液浄化、呼吸療法(43吉田晃大/4回) 体外循環	オムニバス方式
専門教育科目	生体機能代行技術学	生体機能代行装置学Ⅲ	生体機能代行装置学Ⅰ、生体機能代行装置学Ⅱで学んだ内容に加えて、臨床実習での経験した実臨床での経験を踏まえて呼吸療法、血液浄化、体外循環に関連した領域で即戦力の人材に必要な知識についてさらに理解を深める。また、実際の症例を基に対応方法について教授することで、臨床現場をリアルに想像して学びを可能とした授業形態をとる。(5千原伸也/10回) 血液浄化、呼吸療法(43吉田晃大/5回) 体外循環	オムニバス方式
専門教育科目	生体機能代行技術学	血液透析療法装置学Ⅰ	特に血液透析療法および血液浄化療法装置の基本的項目に加え、患者管理に必要な病態生理、合併症、薬物療法、栄養指導などの基本について幅広く習熟する。特に工学的側面と医学的側面の両面からの理解を深め、血液透析療法の実践に必要な基礎知識を身につける。	
専門教育科目	生体機能代行技術学	血液透析療法装置学Ⅱ	血液透析療法装置学Ⅰで学んだ内容を基に、実際に血液透析療法装置の操作運用に必要な知識を修得する。また、臨床実習での経験した実臨床での経験を踏まえて、血液透析療法の領域で即戦力の人材に必要な知識についてさらに理解を深める。また、実際の症例を基に対応方法について教授することで、臨床現場をリアルに想像して学びを可能とした授業形態をとる。	
専門教育科目	生体機能代行技術学	血液浄化療法装置学	血液浄化療法においてさらに即戦力となる実践的知識を学ぶため、各領域における実際の症例を基に機器の操作、治療に関連したより実践的な知識を修得することを目的とした選択科目とする。(5千原伸也/2回) 持続的血液浄化療法(37金谷樹/6回) 慢性透析の合併症対応	オムニバス方式

専門教育科目	生体機能代行技術学	呼吸療法装置学	様々な疾患に対する人工呼吸療法および在宅人工呼吸について、実際の症例を基に機器の操作、治療に関連した実践的な知識を修得することで、呼吸治療の領域において即戦力の人材になることを目的とした選択科目である。	
専門教育科目	生体機能代行技術学	体外循環療法装置学	人工心肺装置および補助循環を含む体外循環療法においてさらに即戦力となる実践的知識を学ぶため、各領域における実際の症例を基に機器の操作、治療に関連したより実践的な知識を修得することを目的とした選択科目とする。	
専門教育科目	生体機能代行技術学	生体機能代行装置学実習Ⅰ	生体機能代行装置は臨床工学技士の主業務であり、在学中に一定以上の実践的技術を修得する必要がある。本実習では人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置本体に加え、実際に治療に使用する器具の原理、構造や操作、管理方法を実際に触れて学ぶことで講義科目での習熟度を高めることを目的とする。また、少人数のグループに分けて実際の操作を行うことで、それぞれの業務領域における基本的な技術を個々に修得し、正しく操作できる基礎を修得する。(9齊藤徳、36扇谷稔、38原田祐輔/6回)人工呼吸器実習(7工藤元嗣、23吉岡政美、41本間将平/6回)人工心肺実習(5千原伸也、8齊藤高志、32布施崇宏、42岡山雅哉/12回)血液浄化実習、まとめ	オムニバス・共同方式
専門教育科目	生体機能代行技術学	生体機能代行装置学実習Ⅱ	生体機能代行装置学実習Ⅰで実習したことを基本に、人工呼吸器、人工心肺装置、血液透析装置、アフエレーシス関連装置を実際に操作して、システムを学ぶ。生体機能代行装置の使用・管理において即戦力となりえる技術を修得し、正しく操作できるようになることを目的とした科目である。(8齊藤高志、26寺島斉、27宗万孝次/8回)人工呼吸器実習(7工藤元嗣、31大宮裕樹、33奥田正徳/10回)人工心肺実習(9齊藤徳/4回)補助循環実習(5千原伸也、30木村吉治、37金谷樹/16回)血液浄化実習(5千原伸也/2回)アフエレーシス(6小鷹丈彦/5回)患者対応	オムニバス・共同方式
専門教育科目	医用安全管理学	医用機器安全管理学Ⅰ	患者と操作者の安全を守るため、医療施設および医療機器管理において電氣的安全の確保は臨床工学技士の最も重要な業務の一つである。さらに、医療ガスは医療法で規定された医用ガス配管での管理のみならず、高圧ガス容器を使用する場合もあるため、高圧ガス保安法に関する習熟も必要となるため、両方において深い理解が必要となる。また、医用機器を用いたシステムを運営管理するため、システム全体の安全管理についても習熟が必要となる。これらについて広く基礎を学ぶことを目的とする。	
専門教育科目	医用安全管理学	医用機器安全管理学Ⅱ	医用機器安全管理学Ⅰで学んだ内容を基に患者と操作者の安全を守るための医療施設における電氣的安全と医療ガス、他ME機器の安全性・安全管理について、実際の医療機器ごとに実践的な知識を習熟する。特に手術室で使用するような重要機器の実践的な安全管理に重点を置いた内容とする。	
専門教育科目	医用安全管理学	医用機器安全管理学実習	医療機器に関連した医療事故を防止するための安全管理および事故が起こった際の対策の検討は臨床工学技士に求められる重要な業務である。本実習では医療機器の安全管理の考え方を理解することを目的とし、グループワークにて安全管理業務に関する現在の課題を発見し、解決策について実験的に検討することを目的とする。また、その結果をポスター形式でまとめて発表する技術を修得する。	共同

専門教育科目	医用安全管理学	医療安全管理学	平成19年の医療法改正により、医療施設には医用機器安全管理責任者の配置が義務付けられ、安全管理業務の推進が図られたことから臨床工学技士の業務においても安全管理業務が重要視されている。本科目では、院内での医用安全をマネジメントする医用機器安全管理責任者に求められる知識として、電磁環境の確保、システム安全の構築、医療機器に関する関連法規、医療機器の安全管理体制など幅広い項目について習熟を図ることを目的とする。	
専門教育科目	関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ	臨床工学技士が関わる消化器学、代謝内分泌学、血液学、神経病学における重要な疾患の病態生理や診断方法、治療方法や患者管理に関する知識について基本的な知識を学び修得する。	
専門教育科目	関連臨床医学	臨床医学総論Ⅱ	代謝、内分泌、腎・泌尿器、生殖器、免疫に関する病態を、解剖・生理とともに十分に理解し、関連する様々な全身病態との関連を捉えて理解できる基礎知識を修得する。また、これらの疾患は他の疾患とも関連して発生する可能性があり、臨床医学全般を理解する上で必要な事項について広く学ぶ。	
専門教育科目	関連臨床医学	臨床医学総論Ⅲ	循環器に関する病態を、解剖・生理とともに十分に理解し、循環器疾患に関連する様々な全身病態との関連を捉えて理解できる基礎知識を修得する。また、循環器症状は他の疾患とも関連して発生する可能性があり、臨床医学全般を理解する上で必要な循環器疾患について広く学ぶ。	
専門教育科目	関連臨床医学	臨床医学総論Ⅳ	肺は全身の臓器と深く関連しており、多臓器不全においても最も障害されやすい臓器の一つである。そのため、臨床医学全般を学ぶ上で、他の臓器とも関連の深い肺疾患における基本的な知識を全身の病態生理とも合わせて理解することを目的とする。	
専門教育科目	関連臨床医学	臨床医学総論Ⅴ	外科系疾患について、各外科領域の診断、手術、術後合併症、および麻酔手術、集中治療学、救急医学について理解し、臨床医学全般を理解する上で必要な事項について広く学ぶ。	
専門教育科目	関連臨床医学	臨床医学演習	基礎医学及び臨床工学の基礎知識を基に臨床現場で必要な医学知識を幅広く修得することを目的とした内容について症例検討および演習形式で学修する。(3瀧本将人/10回) 血液、循環器、呼吸器、消化器、腎・泌尿器、代謝、神経病、麻酔、集中治療、感染症 (5千原伸也/12回) 血液、消化器、腎・泌尿器、神経病、麻酔、集中治療 (7工藤元嗣/8回) 循環器、呼吸器、代謝、感染症	オムニバス方式

専門教育科目	臨床実習	臨床実習	医療における臨床工学技士の重要性・専門性を理解し、臨床現場において最も求められている知識・技術を修得する。チーム医療の一員としての責任と役割を自覚し、臨床工学技士に求められる知識・技術・業務内容について理解し、行動することができるようになる実技スキルを修得する。	共同
専門教育科目	卒業研究	卒業研究	実際の臨床現場で課題について検討することで、臨床工学分野における新規性のある研究テーマを探求し、調査、研究した成果を報告する。研究の流れを経験することで、現状の問題を発見し解決する能力、さらにはそれらの情報を発信するプレゼン能力を修得し、報告会にて発表する。	共同

学校法人日本医療大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 編入学 収容			令和4年度	入学 編入学 収容			変更の事由
	定員	定員	定員		定員	定員	定員	
日本医療大学				日本医療大学				
保健医療学部				保健医療学部				
看護学科	150	-	600	看護学科	150	-	600	
リハビリテーション学科	120	-	480	リハビリテーション学科	120	-	480	
理学療法学専攻	80	-	320	理学療法学専攻	80	-	320	
作業療法学専攻	40	-	160	作業療法学専攻	40	-	160	
診療放射線学科	100	-	400	診療放射線学科	100	-	400	
臨床検査学科	60	-	240	臨床検査学科	60	-	240	
計	430	-	1,720	臨床工学科	60	-	240	学部の学科の設置 (認可申請)
				総合福祉学部				
				介護福祉マネジメント学科	40	-	160	学部の設置 (認可申請)
				ソーシャルワーク学科	80	-	320	学部の設置 (認可申請)
				計	610	-	2,440	